

1. 関西の現状

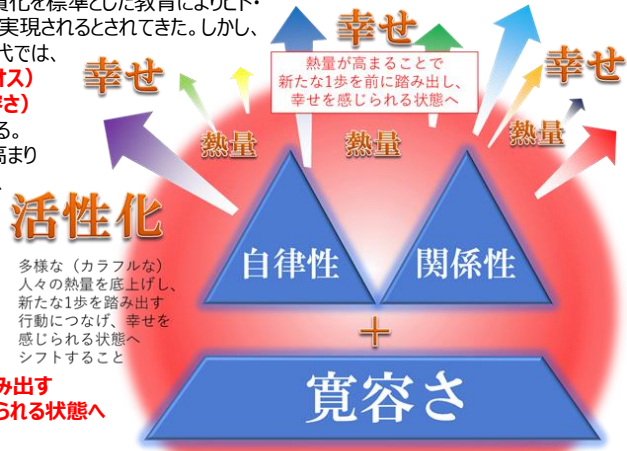
関西の活性化を考えるにあたっての現状認識

- ・全国シェアの経済的指標について、関西のGDPは1970年（前回の万博開催年）を起点に4.2%減、資本金1億円以上の普通法人数は9.5%減と右肩下りの一途を辿っている。大阪府は出生率の低下に加え、社会要因での人口流出が続き、2045年には16.8%減となる見込み（2019時点での予測）
- ・豊富な文化資源（世界遺産全国最多6件）、研究機関の集積（ノーベル賞受賞者約6割）、**多様性に対する寛容さを持ち、他地域から受入れてきた緒方洪庵、五代友厚、小林一三等は、関西経済の礎を築いてきた。**加えて、暮らす人々には活力があり、いわゆる「大阪のおばちゃん」のエネルギーは大きな強みである。（宮根誠司氏へのインタビュー）

2. 活性化の定義とあるべき姿

活性化を構成する要素、定義

- ・「活性化」とは、かつては均質化を標準とした教育によりヒト・モノ・カネが高品質に循環し実現されるとされてきた。しかし、価値観の多様化が進む現代では、**多様性が渦巻く状態（カオス）であるため、包容力（寛容さ）がまず基盤として大切である。**
- ・寛容さに支えられ、熱量の高まり人が幸せを感じる場面では、意欲的なチャレンジにつながる**「自律性」**、また、家族・仕事・社会との**「関係性」**が密につながっていく。
- ・現代の**「活性化」は、多様な人々の熱量を底上げし、新たな1歩を踏み出す行動につなげ、幸せを感じられる状態へシフトすること**、と定義する。



関西における活性化のあるべき姿「異色 集」

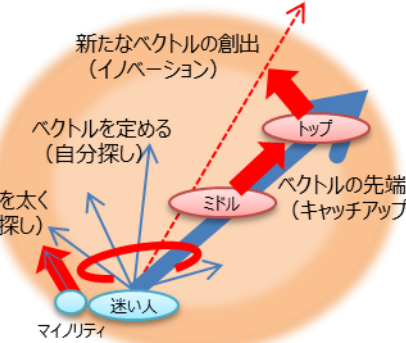
- ・近現代において、関西域外から訪れてきた多くの実業家や著名人が名を成していった。緒方洪庵（岡山出身）、五代友厚（鹿児島出身）らが関西経済の礎を築き、イチロー（愛知出身）などスポーツの分野においても目立つ実績がある。関西は、域外から多様な人材を受け入れてきた「寛容さ」を特徴として持っている。また、「ええやん」と日常会話で使われる言葉一つとっても、称賛の共感の意味に加え、失敗に対する寄り添う共感のニュアンスを含む。この複雑な言葉を巧みに使い、コミュニケーションに長けている。これら関西の**地域特性である「寛容さ」を結び付け、さらに輝きを増す仕組みを導入し、活性なカオス状態でお互いを認め合い、「自律性」を刺激し、刺激され、「関係性」を深めることを追求していくことこそ、関西における「活性化」のあるべき姿とする。**
- ・活性化を示す指標としては、カオス状態では数値比較が意味を持ちえないため、関西に関係を持つことの経験価値を高める活動量を重視する。つまり、**関西とともに生きる幸福感を高める取組みを重視し**、人口増加等の規模を追う指標は設定しない。
- ・活性化状態そのもの、またその状態に向かうとするプロセスも含め、本提言では、**アブノーマル（個性の薄い平均ではない）な熱量を持つ状態として「異色 集」（いしよくじゅう）」と呼ぶ。**生きる上で根源的欲求である「衣食住」になぞらえ、関西のあるべき姿を実現する上で前提条件となる概念である。

コロナを経て見えてきた課題（希望）

- ・**関西人はリアルに重きを置き、アフターコロナにおける通勤意向としては「毎日出社」が東京勤務に比較し44.2%高い（日本総合研究所調査）**
- ・リモートが大半を占めていく中、リアルに会うという体験価値が相対的に上昇（吉川正晃氏 Human Hub Japan代表コメント）
- ・**2020年には、東京・愛知の人口転入超過数値が前年対比減少している一方、大阪の同数値は増加をしている。**
- ・ビジネスパーソンのエンゲージメントは日本は139国中最下位。無気力な従業員が多く、自発性を促す環境が不足している。
- ・人々は物質面の豊かさよりも、心の豊かさや、ゆとりに重きを置いた生活をしたという回答が年々増加（国民生活世論調査）
- ・リアル（対面）がもたらす好影響 経済：MICE：1兆円/年、ハロウィン：1155億円/年、大阪マラソン177億円/年、コミケ150億円/回
健康：地域の中での支えあいやサークル参加など「エイジレス・ライフ」による健康寿命の延伸

「異色 集」の概要

- ・「異色 集」は、カオスからリアルでの体験価値を生み出す概念である。具体的には、新たな気付き、出会いをもたらす機能と、関西のシーズを活かした体験・習熟を可能とする機能、さらにはその2つをつなぎ、訪れる人の熱量を増幅させる機能を持つ。
- ・関西の寛容さを発揮し、異なる色（分野、習熟度）を無数に結びつけ、新たな秩序を生み出す可能性を秘めた更なる活性カオスな状態を創出
- ・関西の持つ文化芸能、産業、学問、スポーツといったシーズを活かし、**多くの分野の関係者が実際に集まることによる相乗効果を狙う。**
- ・マイノリティには仲間を、迷い人にはめざす道を、ミドルにはより高みを与え、幅広い対象をターゲットに、熱量を底上げし、新たな1歩を踏み出す後押しをする。
- ・カオスであるため、訪れる人の属性情報（年齢、性別、国籍、その時の感情等）に応じて、同じ現象に触れたとしても異なる印象を与える。**本提言では、「異色 集」の持つポテンシャルを断片的に示しているに過ぎない。**
- ・「異色 集」を構成する欠かせない要素の1つ「ええやん」という言葉は、**関西では、必要以上に干渉せずに相手に任せるといった、「寛容さ」「自律性」「関係性」を大切にしている文化が、主体的に1歩踏み出す要素であり、今なお深く生活に根付いている。**



3. 提言 「異色 集」の実現

「CAN Shine」の機能

KANSAIは、もっとCAN Shine!

Chaosな価値観の中から、AbNormalな熱量を生み出し、カラフルな希望に輝く **SHINE** 赤・青・緑があるから白が生まれる！色は∞！

森 REST **モール RUN**

ほっと一息、森をさまよい、あなたの未来と仲間を探してみませんか？

Can Shine

森とモールをいったりきたり、RESTとRUNを繰り返す先に、あなたは何を見出す？

- ・「KANSAIは、もっとCAN Shine!」というキャッチフレーズを掲げる。**多様性（Chaos）溢れる価値観の中から、平均的ではない（AbNormal）な熱量を生み出し、多くの色がカラフルな希望に輝く（Shine）ことを示し、光の三原色の赤・青・緑が重なり、白が生まれ、また違う色になっていき輝いてほしいという願いを込めている。**
- ・**Can Shineは場所の名称である。**夢洲の万博跡地に残された大屋根（1周2km）とその中央部にある「静けさの森」を活用した大きく3つの機能で構成される。
- ・「Can Shineの森」には、ほっと一息、リフレッシュさせる「REST」の機能を、「Can Shineモール」には、様々な体験や学習ができる「RUN」の機能を、そして、「Can Shine REST & RUN」には、森（REST）とモール（RUN）を周遊し、様々なヒト・モノ・コトを繋げる機能を持たせる。
- ・もたらす価値は、訪れる人の状況により千差万別であり今回示すのは代表例。

	エリア	機能（代表例）	価値（代表例）
森	コミュニティエリア	・「〇〇好き」の集まり 自由に「フリマ」「ライブ」など可能	・新たな出会い 関係性向上
	アクティブ リラックスエリア	・模擬体験ゲーム ・仮想で迷路 ・不便、自然を味わうゾーン	・新たな気づき ・感情がプラスに ・安らぎ 自律性向上
モール	エクスペリエンス エリア	・文化、芸術、スポーツ等 「コト」の体験	・好奇心刺激 ・成長実感 自律性向上
	プロフェッショナル エリア	・関西の産業技術、匠の技を体験、学習 ・失敗ナレッジセミナー 事業失敗者と議論の場	・更なる成長実感 自律性向上 ・再起の機会増 関係性向上
REST & RUN		・人生すごろくゲーム 森やモールを周遊 ・ええやん祭り Can Shine各地でのイベント	・森とモールの価値を最大化

「Can Shine」の総合的価値

Can Shineは、訪れる人に対して、一時的な熱量、幸福感の高まりだけでなく、そこで得た気づき・出会いから、将来に向けた持続的意欲も同時に喚起させる。

その結果、カラフル（多様）な人が増え、結果として熱量を持った人が増える効果がある。

また、そういった人たちが繋がり、交ざり合い、その熱が波動していくことで、その熱量はさらに増幅する。

個人の熱量が増幅することで、相互に自分らしさやチャレンジを認め合う「ええやん」文化をさらに浸透させ、失敗を許容し、継続的なチャレンジを促す風土の深化につながる。（活性カオス状態）

活性カオス状態から熱量が高まり、1歩前に踏みだし、新しい秩序、すなわち、**それぞれの将来にわたっての持続的な幸福感を生み出すことが期待**できる。

個人の幸福感が高まることで、社会全体の環境が変わり、環境が変わることで、また別の個人が影響を受け、変わっていく、この**好循環を生み出すことこそが本提言「異色 集」を実現している状態**である。

エリア	Can shineの総合的価値（直接効果）	
	個人の変化	社会の変化
森	カラフルな人、熱量を持った人の 増加	ええやん文化の浸透
モール		
REST & RUN	カラフルな人、熱量を持った人の 交流（つなぐ、交ざる、波動）	チャレンジを促す風土の深化

熱量の増幅スパイラルアップ

異色 集の実現状態へ

- ・様々なカラーや熱量を持つヒトや組織からなる活性カオス状態を創出
- ・活性カオス状態から新たな気づき、出会いをもたらし、訪れる人の熱量が高まり、1歩前に踏み出しそれぞれの幸せ(新しい秩序)の創造を促し、持続的な幸福感を高める。
- ・個人が変わると社会が変わる、そしてまた別の個人が変わっていく（好循環）

【副次効果】

- ・経済効果の誘発 IRとの融合により、日本の従来型MICE 経済効果1兆円/年 押し上げ
- ・健康寿命の延伸 周遊による心身をリフレッシュし、健康寿命延伸を期待

運営体制、将来の発展性

【STEP1】 設立＋メディア発信

- ・**産官連携した運営団体設置（PFI）**
- ・「Can Shineの森」「Can shineモール」の機能を持った施設整備
- ・**有カプロデューサを起用しSNS等による広告展開**

【STEP2】 IRとの相乗効果、運営のマネタイズ化

- ・IRと融合した機能の拡大、インバウンド需要取り込み
- ・Can Shineの事業化、運営のマネタイズ化

【STEP3】 国外への展開

- ・Can Shineを夢洲モデル（STEP1、2）としてライセンス化等による国内外への展開
- ・国際社会における「異色 集」の聖地としての役割を夢洲が担う

STEP 1 ■メディア発信

- ・人を集める、ファンを増やす。
- ・メディアを通じた体験。

STEP 2 ■IRとの相乗効果

- ・世界中からカラフルな人を更に集める。
- 運営のマネタイズ化
- ・Can Shineを事業化し、資金を呼び込むための専用ファンドを組織
- ・民間からの資金を通じ、様々なコンテンツの育成及び事業の新陳代謝を促す

STEP 3 ■夢洲モデル国外展開

- ・ライセンス化等により、国外へ夢洲モデルを実装
- ・夢洲は次世代(アブノーマルな)社会を生み出す異色 集の聖地に

夢洲 Can Shine設立

異色 集の 状態

異色 集の 国外実装